

六甲山系グリーンベルト整備事業 みんなの森づくり

樹木ハンドブック



国土交通省 六甲砂防事務所

目次

I. はじめに	p. 1
ハンドブックの特徴	p. 1
六甲山系の植生	p. 1
II. 検索	p. 2
樹木の調べ方	p. 2
葉の見方	p. 2
葉から調べる	p. 4
花から調べる	p. 8
実から調べる	p. 11
III. 解説	p. 15
解説ページの見方	p. 15
アイコン解説	p. 16
落葉広葉樹	p. 17
常緑広葉樹	p. 58
針葉樹	p. 79
つる植物（木本）	p. 82
その他	p. 84
IV. 和名索引	p. 87
V. 巻末	p. 89

1. はじめに

ハンドブックの特徴

1. 本ハンドブックは、森づくり活動を行う際に知っておきたい樹種や、六甲山を特徴付ける樹木など、計70種を収録しています。
2. ①葉の形 ②花の色 ③実の色 の3つの方法で検索できます。
3. 解説ページでは、見分け方のポイントや特徴、六甲山での分布や生育環境を記載しています。
4. 解説をさらに詳しく知りたい方や、本ハンドブックに掲載されていない樹木について知りたい場合、「六甲山系電子植生図鑑」 (<http://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/rokko/vegetation/>) をご利用ください。

六甲山系の植生

現在の六甲山は緑に覆われていますが、明治の初期は、ほとんど草木のない山でした。今みられる緑は、その大部分が明治以降、植林によって回復したものです。

六甲山は、山麓と山頂とで気温差が約6℃、年間降水量の差が約600mmあり、多様な環境を有しています。このため、六甲山地とその周辺域では約1,700種の植物が確認されており、一度は草木のない状態となったにも関わらず、現在では多くの植物が生育しています。

現在、六甲山では、コナラ林などの落葉広葉樹林、シイ林及びカシ林などの常緑広葉樹林、アカマツ林やスギ・ヒノキ林などの針葉樹林をみることができます。また、六甲山で見られる樹林は、植栽由来の二次林がほとんどですが、六甲山頂や寺院・神社の周囲には、保護されてきた自然林が残されています。